

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・6月の売上は、2024年比で113.7%、2023年比で135.1%、2022年比で263.7%、2021年比で1857.1%、2020年比で1407.2%、2019年比で145.6%となっている。
	○	スーパー（店長）	お客様の様子	・トラベル関連やゲームなど、趣味への消費が活発になっていることから、生活に多少の余裕が出てきている様子がうかがえる。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・気温の上昇もあって、アイスや飲料などの暑い日に売れる商材の販売量が増加している。特に、ボーナス支給日とみられる6月15日以降の動きが良くなっている。そのため、景気は3か月前よりも良くなっている。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・気温の上昇が続いていることで、夏物商材を買い求める客が増加しており、来客数が前年を上回っている。また、客単価も上昇していることから、景気は良くなっている。
	○	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・物価高が続くなか、店舗の売上は前年比120%、前々年比105%となっており、増加傾向にある。サービス部門のほか、洗車用品、車内用品が好調で数字を底上げしている。特に、洗車用品は、外資系メーカーの高単価商材がよく売れている。これらの好調部門は、ぜいたく品と捉えられることから、景気はやや良くなっている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・当地への入込が、多少増えていることから、景気はやや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国内線も、国際線も前年を上回る利用者数となっていることから、人流が活発になっていることがうかがえる。特に、国内線は、首都圏便の利用者数の増加が目立っている。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・当地において、全国的なイベントが開催されたことから、6月の売上は多少増加した。ただし、依然として、乗務員不足が続いているため、厳しい状況は変わっていない。
	○	美容室（経営者）	販売量の動き	・6月の売上は5月よりも5%ほど増えている。5月は4月と同じような売上であったことから、景気はやや良くなっている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・国内のツアー客が減少傾向にあるものの、インバウンドや国内の個人客が増加していることから、輸送量は順調に増えている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年であれば、来街者が徐々に増加してくる時期であるものの、今年は日中の午前10時から午後2時にかけての徒歩客は少ないままである。また、区域外でイベントが開催された際も、以前のように区域内に客が流れてくる様子がほとんどみられなくなっている。ホテルに宿泊している観光客やビジネス客も、コンビニの袋を携えてホテルに戻る姿をよく見掛ける。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・大阪・関西万博の開催期間中であることから、国内観光客の落ち込みを懸念していたが、今のところ大きな落ち込みはみられない。ただし、まだ油断はできない。一般消費は、物価の上昇、ガソリン価格の高騰、電気料金の負担増などの要因により、節約志向が浸透しており、買い控えが続いている。飲食店は客足が大幅に落ち込んでいる。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、道外からの修学旅行がかなり増えていることから、6月は学生の客が多くみられた。また、年配のグループ客も多くみられた。学生や年配の客は、懐が割と暖かいのか、客単価が高い傾向にある。

□	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・依然として一進一退の状況が続いており、先行きが読めなくなっている。
□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・急激な気温の上昇で、来客数が減少傾向になっている。一方、本格的な夏の到来に合わせて、道内への観光客は増加することになる。全体でみると、プラスマイナスゼロで景気の動向に余り変化はみられない。
□	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年からの商品値上げの動きや消費者の買い控え傾向は変わらない。商品が値上げしている分の上乗せがあるので、売上はどうか前年並みを維持している。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・米の価格高騰もあって、おにぎりや弁当の値上げが続いている。その影響で、販売量が減少傾向にある。
□	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・気温が上がっていることで、来客数は増加傾向にある。ただし、全体的な動向は、前年と変わっていない。物価が上昇していることで、売上は増えているが、景気が良くなっているとはいえない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・当店の販売量については、販売部門もサービス部門も目標を達成している。ただし、全体的にみると、サービス部門の入庫状況が良い一方で、販売部門が苦戦している店舗もみられる。新型車の発売が余りないこともあって、夏枯れがみられ始めている。新車ローンの金利を下げるような動きが出れば、販売量が増えてくるとみられる。
□	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・依然として、受注できる車両が少ないことから、新車購入客の来店が少ないままである。新車登録も前年並みで推移している。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・売上の前年比をみると、3か月前と6月で変化がないため、景気は良くも悪くもなっていない。
□	その他専門店 〔造花〕（店長）	お客様の様子	・物価高が続いていることから、4月以降、客の買い控え傾向が続いている。
□	スナック（経営者）	来客数の動き	・客の人数がほとんど変わっておらず、売上も大きく変わっていない。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・個人客の国内旅行はやや減少しているものの、グループ客の団体旅行や個人客の海外旅行はやや増加している。全体的には、横ばいでの推移となっている。
□	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・客の動きがやや落ち着いてきている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・毎年恒例のイベントが行われたことで、タクシーの利用は前月よりも多少増えている。当社における6月のタクシー1台当たりの売上は、前年比プラス3%であった。また、乗務員の採用に注力したことにより、乗務員が前年比プラス30%と45名増加しており、タクシーの稼働台数も増えている。会社の売上は前年比プラス33%であった。ただし、採用コストが増えているため、利益は前年並みであった。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・観光客やイベント関係の利用客について、特に変化がみられなかったため、景気は変わっていない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・物価高が続いているなか、金利も上昇していることから、住宅を建てようという動きが停滞している。個人消費の買い控えも進んでおり、景気はなかなか好転してこない状況にある。
□	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・地価や建築費が高止まりしており、住宅ローンの金利も上昇していることから、消費者の購入マインドが低下している。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・米の価格上昇や止まらない物価高の影響で、商品の買上点数が減っている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応は決して良いものではない。景気が良くなっているといった話は全く聞こえてこない。
▲	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・来客数は多少回復してきたものの、購入意欲の低い状況が続いている。
▲	百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数は変わらないものの、客単価が低くなっている。

▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・客から生活が苦しいとの話をよく聞く。
▲	スーパー（企画担当）	単価の動き	・来客数は前年並みを維持しているが、客単価が前年を下回っている。消費者物価指数は前年比で3%台の上昇と報道されているが、実態とかい離しすぎている印象がある。
▲	スーパー（役員）	お客様の様子	・お中元商戦が始まったが、メロン、魚介類などが値上がりしていることもあって、乾麺や油のセットなどの実用品に需要がシフトしている。客の生活防衛意識の高まりがうかがえる。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高騰の影響で、引き続き客の節約志向がみられる。
▲	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・この時期はシャツなどの単価の低い商材がよく売れる傾向にあるが、今年は暑さの割に商材の動きが非常に鈍い。セール品を探している様子の客を見掛けることも増えている。客から、安い商品はないかと問いかけられることも多く、価格にシビアな環境が戻ってきている。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・多数の商材のモデル変更を控え、販売中の車の商品力が低下している。また、メーカーのネガティブイメージが強まっていることもあって、来客数が大幅に減少している。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月以降、新車の受注量が低調なまま推移している。中古車販売は、前月よりも落ち込んでいる。来客数も6月は少なかった。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ランチの来客数はどうにか前年並みを維持できたが、ここに来てやや落ち込みがみられるようになっている。特に、真夏並みに気温が上がった日は、昼も夜も来客数が落ち込んだ。例年であれば、気温が30度を超えるようになる7月になると、ビールを飲みに行く客が増え、レストラン利用客が減少することになるが、今年はそうした動きが早くも始まっている。一方、同業者の様子をみると、婚礼主体の店舗で食中毒があったことで、影響を懸念したが、食材が原因ではなかったことに安心した。ただし、店内の清掃や消毒には一層の注意が必要だと気持ちを新たにした。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・物価高と大阪・関西万博の影響で、国内外からのグループ客の減少が目立っている。また、インバウンドについては、7月に地震が起こるとの風説が流れていることで、香港、台湾などのグループ客のキャンセルが相次ぎ、大きな影響が生じている。参議院選挙を控え、夏場の国内客の予約が鈍化していることもマイナスである。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・法人の団体旅行において、大阪・関西万博への盛り上がりが見られず、当初の見込みよりも取扱量が少ない状況にある。また、地域全体的に景気が余り良くなく、年度当初よりも販売量が落ち込んでいる。
▲	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・2025年度下半期に予定されていた案件について、延期や中止の判断をすることが相次いでいる。
▲	通信会社（企画担当）	競争相手の様子	・競合他社において、道内主要都市の量販店への販売促進支援費を増額する動きがみられることで、当社の営業活動に割くスペース、人員が一部店舗で減っている。こうした動きに対抗するための支援費を捻出できない状況にあることから、売上に影響が出てくることを懸念している。
▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年よりも天候に恵まれ、期待できる環境は整っているにもかかわらず、6月に入り、利用者数の見込みを若干下回る日が目立つようになっている。こうした動きは、2025年度になって初めてのことである。台湾や香港において、日本への観光を控える動きが出ていることの影響が現れ始めている。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・春以降、徐々に売上が増えていたが、6月になり、野菜、魚、加工食品、果物などの値上げが顕著になっていることから、客が支出を控える雰囲気が強まっている。そのため、客の来店周期が伸びてきている。

	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・メニューの変更や来店サイクルの変化について、話をする客が増えた。物価高の影響が強まっていることがうかがえる。
	×	スーパー（店長）	お客様の様子	・値上げを行った後も、少しずつ価格を上げている商品があることから、客の買い方がシビアになっている。また、弁当類は、ほとんどの商品で1円単位の値上げを行っており、税込価格に端数が入るようになったことから、全体的に商品が高くなっている印象を与えている懸念がある。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・物価の高騰や令和の米騒動など、国民生活に直結する問題を巡って、国による効果的な対策がなかなか打ち出されないことから、客の生活防衛意識が強まっている。特に、生活のゆとりを満たすような消費行動が落ち込んでいる。タクシーは節約の対象となりやすいことから、厳しさを増している。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・前年度からの繰越工事の現場に加え、新年度に受注した工事の全現場も早々に本格稼働している。前年を上回るペースで出来高が積み上がっている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・倉庫は、農産品の収穫に備え、出庫が進んでいる。一方、バターなどの乳製品は堅調な保管量をキープしている。本州とのトレーラー輸送は、乳製品は低調なものの、紙パルプが引き続き好調なほか、ここに来て飲料関連に動きが出てきたことで、収益を下支えしている。
	○	司法書士	受注量や販売量の動き	・新築、売買、リフォームなど、不動産登記の関連業務の販売量が増加している。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・人手不足問題、米国の関税政策などの懸念事項はあるものの、現状の国内建設投資は堅調に推移している。
	□	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・青果物の端境期であることから、判断が付かない状況にある。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・設計案件は増えているものの、担当できる設計者が不足していることから、契約案件は増えていない状況にある。
	□	輸送業（支店長）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前よりも荷動きは良くなっている。ただし、依然として、荷役料金や運送料金の値上げ交渉に苦勞していることから、収支面が改善していない状況にある。人材不足は引き続き深刻であり、荷物はあっても業務をこなせない状況も続いている。
	□	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・受注が好転するような動きが余りみられない。景気は停滞したままである。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年よりも単価が上昇しているにもかかわらず、売上が前年を下回っている。3か月前と比べても減少している。
	▲	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・6月の販売量は、前年比プラス5%であった。一方、3か月前の3月の販売量は、前年比プラス21%であったことから、景気はやや悪くなっている。
	▲	通信業（営業担当）	取引先の様子	・物価高が続いているなか、国の経済対策が高齢者に比重に置いたものになっていることから、現役世代の消費マインドが低下している。結果的に、企業の経済活動も、以前と比べて停滞している。投資についても、コスト削減を重視する慎重な姿勢が強まっている。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・企業から、価格転嫁を進めている一方で、販売量が減少しているとの声を聞くことが増えてきた。原材料価格や仕入価格の上昇を危惧する声も、依然として多い。また、人件費も含めたコスト増加と価格転嫁が見合っていないとの声もみられる。これらのことから、景況感はやや悪くなっている。

	▲	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・年度初めは、前年度からの受注引継ぎもあって売上が増えたが、ここに来てベース商材などの販売量が大幅に減少している。建築鉄骨関連については、大型工事の話はあるものの、数か月先の案件であることから、受注が佳境を迎える時期が遅れることになる。
	×	司法書士	受注量や販売量 の動き	・業務遂行に当たっての機械の稼働に係る電気代、現地への移動に係るガソリン代、証明書発行手数料などについて、値上げが続いている。受注量は、例年並みの数量を維持しているものの、コスト負担が増えていることから、景気は悪くなっている。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・当地で開催されていた菓子の大規模イベントは無事に終了した。集客が好調であったことから、宿泊施設や飲食店、土産物店などの周辺業種にも多くの来客があり、当地に生じた経済効果は大きかったとみられる。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数は堅調に推移している。前年比は60%の増加となっており、企業の求人意欲は、依然として高いことがうかがえる。求人の職種としては、営業職が堅調に推移しているほか、経営コンサルタントの求人が目立つようになっている。好調な業績を背景に、取引拡大のチャンスと考える企業が増えていることがうかがえる。一方、建設業や製造業は、人材確保がなかなかできていない。ある設備設計の会社からは、資格者を確保できなかったため、発注を断らざるを得ないとのコメントもみられた。また、人材と求人企業のミスマッチも増えている。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・インバウンドが増加していることで、宿泊、飲食、小売の求人が堅調に推移している。ただし、業界によるばらつきがあることから、求人を行う企業は、前年と比べて横ばい又は若干の増加となっている。
	□	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で7.3%の減少と2か月連続で前年を下回ったが、月間有効求人数は前年比で3.6%の減少にとどまっており、求人数の落ち込みが大きいとまではいえない状況にある。
	□	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・当地における5月の有効求人倍率は0.80倍であり、前年と同じであった。
	□	職業安定所（職 員）	求人数の動き	・雇用環境の変化を感じるような動きが見当たらない。
	□	職業安定所（職 員）	求職者数の動き	・求人倍率は横ばいでの推移となっている。求人企業にも、求職者にも目立った動きがみられない。
	□	学校〔大学〕 (就職担当)	雇用形態の様子	・企業の採用活動が活発化しており、学生の内定獲得率も前年を上回って推移している。企業における雇用条件の改善も進んでいる。ただし、人手不足の状況に変化はみられない。
	▲	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・業種による違いはあるものの、全体を通してみると、求人数は減少傾向にある。
	×	—	—	—